

18

お名前	性別	満年齢	終戦時の年齢	現住所
いぬづか 犬塚 とく	女性	84歳	19歳	八名井

① 8月15日は、どこでどんなことをしていましたか。

畑の草取りをしていたが大事な放送があるというので、12時前に家に帰りました。

② 終戦のことを、どこで、どのように聞かれましたか。

家でラジオで聞きました。

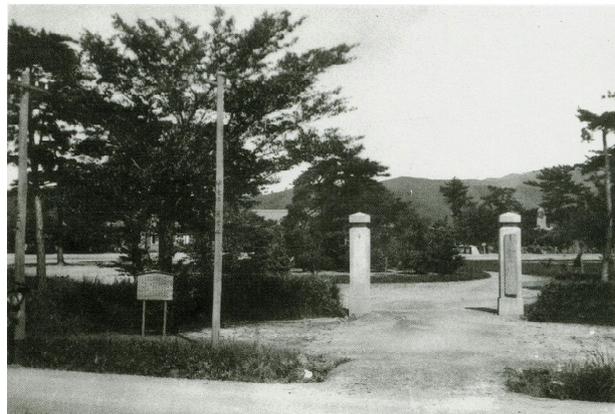
③ 敗戦を知らされた時の気持ちやその時の様子

私は、主人と昭和20年5月19日に結婚したばかりでした。戦争から帰った主人は、勤労報国隊大工隊として海軍工廠へ行き始め、わずか5日目で空襲にあい、亡くなりました。もう10日早く終戦になったら死なずにすんだのに、と悲しみにくれました。

④ 体験の中で、子どもたちに語り伝えておきたいこと

「兵隊さんの見送りと村葬」

私が富岡尋常高等小学校4年生の時、昭和12年に支那事変が始まりました。そのころ、お国のために出征される兵隊さんを送るのに、児童全員で行列をして清水野小学校の校門前まで送るようになりました。兵隊さんの見送りは、それぞれの学区の境までと決められていたようです。中宇利は富岡との境、富岡は黒田や一鍬田との境までとなっていたようです。私の家は富岡でしたので、清水野小学校まで行きました。



▲ 清水野小学校校門付近（昭和2年）

白地に墨で「克己」と書かれた、富岡小学校の徽章のついた旗を先頭に、出征兵士ののぼり旗が掲げられ、太鼓をたたきながら歩きました。「出征兵士の歌」や「♪勝ってくるぞと勇ましく～露營の歌」などの軍歌を歌ってにぎやかに見送りしました。「克己」の旗は、富岡にあった「八名高」出身で、陸軍大將になられた松井石根という軍人さんが贈ってくださったものだと言いました。



▲ 陸軍大將「松井石根」揮毫による富岡小学校旗（富岡ふるさと会館 所蔵）

清水野小学校の門のところで、村長さんがあいさつをされます。そして最後に、

兵隊さんが少し高くなったボタに立ち、元気よくあいさつして、新城駅へ向かって出発されました。

戦死された方がみえると村葬が行われました。清水野小学校の校庭の忠魂碑の前で行われました。当時は、戦死は名誉なこととされ、大ぜいの人が集まり、盛大に行われました。役場の人や村の人、親せきの人をはじめ、富岡、清水野、宇理、庭野、八名井の5校の子どもも参列しました。小学生と高等科の2年生までが参列したように思います。

私たちの学年は寅年生まれなので、国防婦人会の方々が出征される方の武運長久のための千人針を持って学校へこられ、年の数だけ何枚も何枚も縫いました。

また農繁期には、出征された留守の家へ、学校から稲刈りや稲の株抜きのお手伝いに行ったことを思い出します。

### 陸軍大将 松井石根について

明治11年（1878年）愛知県生まれ。明治20年に富岡にできた八名高等小学校を卒業。陸軍大学校を首席で卒業。在学中に日露戦争に従軍した。上海派遣軍司令官等を歴任し、陸軍大将となる。終戦後、戦争犯罪人として逮捕され、司令官を務めていた軍が起こしたとされる「南京大虐殺」の責任を問われて死刑判決を受け、処刑された。



▲ 宇利峠へ干し草用の草を採りに行くところ（昭和17年）



▲ 千人針（協力：奥三河郷土館）

（写真提供…犬塚とくさん）

千人針  
1mほどの長さの白布に、赤い糸で千人の女性に一人一針ずつぬって結び目を作ってもらう。特例として、寅年生まれの女性は、自分の年齢だけ結び目を作ることができる。これは、虎が「千里を行き、千里を帰る。」との言い伝えにあやかって、兵士の生還を祈るものである。